

地学協働

17

2024年2月

Hokkaido community and school collaboration

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課



バックナンバーはこちらから御覧いただけます。

1 北海道地学協働アワード2023

令和6年2月16日（金）に「北海道地学協働アワード2023」を開催しました。公立の高等学校と特別支援学校など全道からエントリーした15校のうち、予備審査を通過した8校が発表し、グランプリ、準グランプリ、特別賞が決定しました。今号では、ページを拡大して、受賞した学校をはじめ、エントリーした全ての学校を紹介します。



グランプリ

▶北海道本別高等学校



コミュニティ・スクールとコンソーシアムが機能しており、地域と学校が一体となった取組により素晴らしい成果が見られています。

本別高校は、地域と学校が連携・協働して実践されている「とかち創生学」を核として、様々な教育活動が展開されており、スクール・ミッションで掲げている「地域の未来を創っていく生徒の育成」に向けての着実な取組など、全道における地学協働の模範となる学校であるため、グランプリに選ばれました。

本別高校資料⇒



準グランプリ

▶北海道津別高等学校



「つばつ学協働体制」を構築し、行政、教育機関、NPO法人、地域企業などと連携が図られており、地元への就職率の増加など着実に成果が現れています。また、全教職員の地学協働に対する意識の高まりが見られるとともに、生徒の主体性の高まりも感じられ、全道における地学協働の理想的な取組を実践しているため準グランプリに選ばれました。

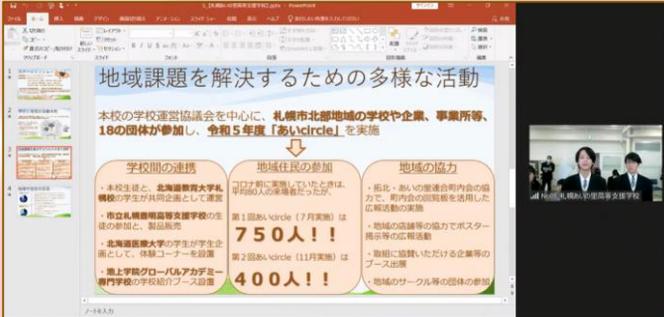
津別高校資料⇒



◆地域の特色を活かした特徴的な活動を行っている6校が特別賞に選ばれました。

【地学連携活動賞】

▶北海道札幌あいの里高等支援学校



↑学校運営協議会を中心として様々な機関と連携を図り、18の団体が参加するなど地学協働による地域の活性化に資する活動を実践しています。

【地域連携開発賞】

▶北海道岩見沢農業高等学校



↑地域の企業の賛同を得て、コラボレーションをした地域課題を解決するための様々な活動が展開されており、SDGsの観点も取り入れられています。

【農福連携推進賞】

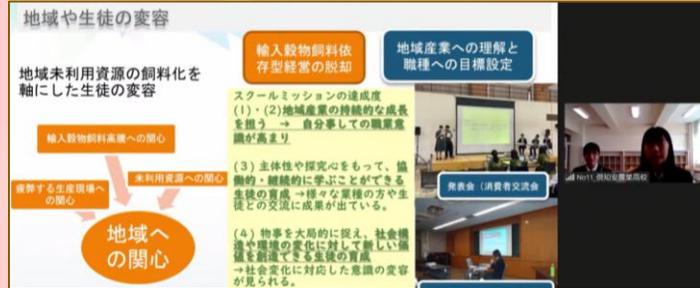
▶北海道余市紅志高等学校



↑「共生社会の実現」をテーマに余市紅志高校をハブとした地域づくりコンソーシアムと農福連携コンソーシアムの2者がうまく連携されています。

【地域産業活性賞】

▶北海道倶知安農業高等学校



↑まちの地域課題を具体的な形で学校教育に取り入れて、高校生の力によって、地域未利用資源を活用するなど、地域の活性化が図られています。

【地域連携活性賞】

▶北海道帯広南商業高等学校



↑様々な地域団体との連携・協働によって、生徒の地域貢献の意識の高まりが見られており、地域との連携が活性化しています。

【地域未来創造賞】

▶北海道帯広三条高等学校



↑地域探究を基盤とした進路実現を目指すために、「探究コンソーシアム」が整備されるなど、持続可能な地学協働体制の構築が期待されます。

地域と学校の連携推進協議会（道北会場）

令和5年11月22日(水)に道北ブロック（主管：上川教育局）において、オンラインで地域と学校の連携推進協議会を実施しました。

道北会場では、実践発表のほか、「実践発表を踏まえた取組の交流」と題して、情報交流を行い、地域の実態に応じた取組の成果や課題を共有しました。

- 1 参加者 教育委員会職員、学校教職員、保護者、地域住民、学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、社会教育関係者、道職員、市町村職員、幼稚園教職員 等

2 内容

- (1) 行政説明 北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課地学協働推進係主査 横地 康恵
 ■ 道の現状と課題を踏まえ、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動（地学協働）の一体的な推進の重要性や、今後の展望などを説明しました。

(2) 実践発表

旭川市立旭川中学校における取組

発表者：旭川市立旭川中学校
主幹教諭 浪岡 一氏

学校運営協議会における 生徒会本部役員や柔道部員による実践発表



旭川中学校の生徒が学校運営協議会で実践発表を行うなど、自校の特徴的な取組について、説明がありました。

当麻町における地域学校協働活動の取組

発表者：当麻町教育委員会社会教育課
生涯学習推進アドバイザー
布施 司氏
当麻町立当麻小学校
主幹教諭 田村 健太郎氏

学習活動の具体化

はばたき学習 年間指導計画									
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
目標	4	5	6	7	8	9	10	11	12
内容	<p>「はばたき学習」の推進と、地域との連携による学習活動の充実を図る。</p> <p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域との連携による学習活動の推進 ② 地域との連携による学習活動の推進 ③ 地域との連携による学習活動の推進 								

当麻町における「キャリア教育」や「ふるさと教育」と結びつけた「児童が地域に誇りをもつことができる教育活動」の紹介がありました。

下川町教育委員会と 北海道下川商業高等学校の連携

発表者：下川町教育委員会主事
地域学校協働コーディネーター
本間 莉恵氏



下川町では、「地域共育ミーティング」を開催し、校種間の連携を目指しています。教員、行政職員、地域住民が一緒になって、ビジョンを共有した取組の実践について発表がありました。

(3) 実践交流



各グループでは、学校と地域におけるCSの取組・課題などを交流しました。今後の方向性を確認するとともに、管内を超えた新しいつながりができました。

○●○子どもの読書活動推進コーナー○●○

学校図書館は、様々なメディアを扱い、子どもたちの知的好奇心を呼び起こし、情報を収集・選択・活用する能力を育て、学びを深める場所です。今号は、道内の次の2管内からそんな好事例を紹介します。

【根室管内】新聞を活用した教育活動の推進(別海町立野付小学校)



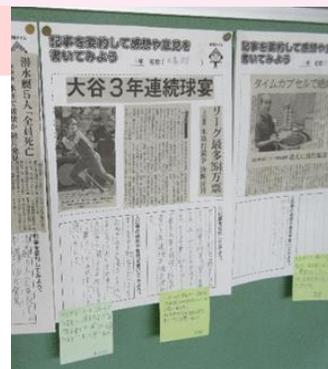
子ども一人一部の新聞を配付「別海町新聞の日」

別海町では、学びの土台となる資質・能力を育成するため、新聞を活用した教育活動を推進しています。毎日の各学校への新聞配付のほか、毎月最終月曜日を「別海町新聞の日」と定め、児童生徒一人一人に新聞を配付して各学校における新聞を活用した学びを後押ししています。

新聞を活用した学びの土台づくりの取組

野付小学校では、「朝新聞の日」を日課に位置付け、全児童が新聞を読む機会を毎週設定しています。学校図書館前には、複数の新聞を読み比べることができる新聞コーナーを設け、学校司書が新聞への興味関心が高まるようPOPやクイズなどで工夫し、新聞と出会う環境づくりをしています。

興味をもった記事を要約して自分の考えを書く活動を継続し、考えを広げたり深めたりする機会となるよう、ワークシートを廊下に掲示して交流しています。



【宗谷管内】本とふれあう機会を充実させる取組(利尻富士町立鴛泊小学校)



子ども目線で選んだ本の展示

鴛泊小学校では、学校図書館の図書の購入・廃棄を計画的に行い、授業等で活用しているほか、図書委員会の児童が、低・中・高学年からそれぞれ好きな本のアンケートを行い、まとめたポスターを作成し掲示しています。学校図書館の前の廊下にコーナーを設置し、自由に本を手にとって見られるように展示しています。

図書ボランティアサークル「りっぷの森」による学校での読み聞かせ

利尻富士町では「利尻富士町子ども読書プラン」に基づき、子どもたちの読書習慣が定着するよう読書活動を推進しています。図書ボランティアサークル「りっぷの森」が毎月鴛泊小学校を訪問し、本の読み聞かせやブックトークを行っています。ボランティアとの連携により、子どもたちの読書環境のさらなる充実につながっています。



題字の背景写真は、「北海道公式観光サイト『HOKKAIDO LOVE!』」

(公益社団法人 北海道観光振興機構) のフォトライブラリーから御提供いただいております。

● 掲載サイト <https://www.visit-hokkaido.jp/>

